

# 図書館だより 2月号

発行日 2018年2月26日

発行 戸塚高校図書委員会

バレンタインに入試休みにいかがお過ごしでしたか？

図書館では先生から生徒へ本を紹介する冊子、『コトノハ』の配布の準備が進んでいます。

『コトノハ』配付に先駆けて、図書委員と司書からおすすめ本を紹介します。

## おすすめ本紹介のコーナー

図書委員からのおすすめ



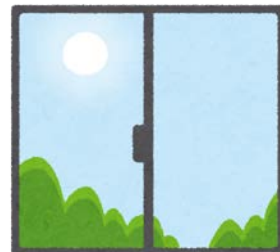
### 100 回泣くこと

中村航

婚約をしていた藤井と佳美、佳美の提案で結婚生活の練習として1年間、同棲生活をしていた二人、そのわずか半年後、体調を崩した佳美を病院に連れて行くと癌だと診断された。

突如襲った悲劇に藤井は彼女に最後まで寄り添うことを決める。抗うことのできない運命に対する人間の心情が深く書かれた愛と感動の物語。一度読んでみてもいいかもしれません。

### 言の葉の庭



新海誠

自然の見せる気まぐれな空模様。恋、将来、過去、煩わしくも愛おしい人の営みが成す人間模様。その対比の成す美しい言の葉。ある日の晴れの空の下での憂鬱、またある日の雷鳴の轟く雨空の下での喜び。短歌にのせた歳離れの艶事の物語に、誰しも本を開けばそっと心を掴まれるはず。



## 余命 10 年

小坂流加

あと 10 年しか生きられないとしたら、あなたは何をしますか。長いと思い悠然と構えられますか。短いと思い駆け出しますか。あと 10 年しか生きられないと宣告されたのならば、あなたは次の瞬間、なにをしますか。

この本はそんな問いかけから物語が動き出す。主人公の茉莉は 20 歳で数万人に 1 人という不治の病にたおれ、余命は 10 年であることを知る。笑顔でいなければ、周りが追いつめられる。何かを始めても志半ばであきらめなくてはならない。未来に対する諦めから、死への恐怖は薄れ、淡々とした日々を過ごしていく。何となく始めた趣味に情熱を注ぎ、恋はしないと心に決める茉莉だったが…。

茉莉と一緒に彼女の 10 年を生きてみませんか。



『あと 10 年しか生きられないとしたら、あなたは何をしますか。』

司書からのおすすめ

## チップス先生、さようなら

ジェイムズ・ヒルトン

お別れの言葉をかかげるこの小説は、さみしいお話だろうか。確かにさみしく、せつない場面は多い。でも、愉快的ことやうれしいこともたくさん起こる。これはイギリスの寄宿学校に勤めた、チップスと呼ばれる先生の半生をつづったお話だ。

チップス先生はラテン語・ギリシャ語教師として、長年生徒に教えてきた。その間、いいこともあったし、とてもいいこともあったし、悪いことも悲しいこともあった。そのすべてをチップス先生は憶えている。長年教えている間に、とうとうチップス先生しか知らなくなったこともたくさんある。

年をとって教職を退き、学校の隣で隠居生活を送りながら、先生の胸には様々な記憶がよみがえる。どんなに楽しく、美しく、大切な思い出も、時間とともに過ぎ去って、忘れられていく。そして思い出を憶えている人々も、通り過ぎて昔の人になる。けれど、通り過ぎてゆく人の姿もまた、新たにやってくる人の記憶に残る。そして、その人もまた思い出を重ねてゆき、いつかは次にやって来る人の中で、新しい思い出になって去ってゆく。

学校という、絶えず人の入れ替わる場所にとどまり続けたチップス先生を通じて、多くの思い出は失われる、けれどすべてのものが消えてゆくわけではないのだ、ということが、この本から伝わってくる。誰かが憶えていてくれる、ということは、生きてゆく時、そしてどこかへ去ってゆく時、とてもうれしいことなのではないだろうか。この本が、いつか高校生活の思い出のよすがとなれば幸いである。

